

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

ダンゴムシ～小さな命との出会い～／学校法人押野学園 せんだい幼稚園

子どもたちが大好きなダンゴムシ、園の子どもたちがダンゴムシに関わる姿をどのように把握していますか？

子どもたちは、ダンゴムシを掌に載せたり、動きをよく観て面白がったり、餌を探したりなど、ダンゴムシと関わり、興味を深め愛着を感じていきます。

子どもたちが、小さな小さな命と出会い、友達や保育者と話し合いを重ねながら大切にダンゴムシを飼育する過程で、「科学する心」に繋がる体験をしている実践をご紹介します。



○ダンゴムシに教えてもらった大切な命／5歳児

✦ダンゴムシのお腹に…

- 5月初旬、いつものように虫探しをしていた5歳児のRちゃんが、捕まえたダンゴムシのお腹に白い物が付いていることに気付いた。

Rちゃん：「先生！ダンゴムシ見付けた。だけど、お腹になんか付いてるよ！！」

- 子どもの手には腹部に白くて小さな粒がたくさん付着したダンゴムシが…。それを見て、興味を示す子どもたち、中には不快に感じる子どももいた。

Aちゃん：「うゑーなんか気持ち悪いー」

- いつもはダンゴムシに興味を示さなかった子どもも近付いて覗き込み、そのものが一体何なのかと関心を示していた。



✦これなんだろう？

- 保育者は卵だと分かったが、すぐには子どもたちに教えずに様子を見守ることにした。しばらくして、子どもたちは…。

Bちゃん：「何これー！ウンチかなあ？」

Cちゃん：「違うよ、卵だよ」

保育者：「そうだよ、ダンゴムシの卵だよ」

Dちゃん：「すごーい！僕も欲しーい」

- 卵を抱えたダンゴムシがいることを知って「自分も見付けたい！」と輪から 離れすぐに探しに行く姿も見られた。

Eちゃん：「このダンゴムシ育てたい！」

保育者：「じゃあみんなで育ててみようか」

Sちゃん：「生き物って育てるの大変なんだよ」



- Sちゃんの発言により、周りの子どもたちは育てるとはどういうことなのか、どのような環境でどうやって育てるのか話し合いが始まった。「育てたい」という子どもからの意見を尊重し、クラスでダンゴムシを飼うことにした。
- 子ども同士でどのような環境でどうやって育てるのか話し合う。
「土の中にいるよね」「ダンゴムシって何食べるのかな」「すぐに死んじゃうんじゃない？」
- どのように飼うのかということは、その場での話し合いだけではなかなか決まらなかった。そこで、各自、家でダンゴムシのことを調べてくることになった。
- ただ「育てたい」という気持ちだけで飼育しては失敗を繰り返し、育てる楽しさを感じられなくなると保育者は思った。そこで、みんなでよく話し合い、一度よく調べてから育てるという方法をとった。

✿ 飼育会議

- 卵を持ったダンゴムシを見つけた後に、ダンゴムシをどのように育てるか話し合いを行った。子どもたちの要望によりクラスに昆虫の図鑑を用意していたため、話し合いの日まで子どもたちは図鑑に釘付けになり、以前は関わりの少なかった友達ともダンゴムシのことをきっかけに話をするようになっていた。ダンゴムシはどんな所に住んでいて、ダンゴムシにとって生きやすいのはどんな環境なのかを保育者を交えて話し合った。
- 「じめじめしたところ」「枯れた葉っぱの下」「石の下」「土の中」「日陰」など、子どもたちは、ダンゴムシがどこに住んでいるか自分の考えを言う。
- 図鑑から知った情報だけではなく、日頃ダンゴムシを見付けるのが上手な子どもは自らの経験から「階段降りて花壇のところのプランターの下…」などと具体例を挙げながら話をしていった。

✿ 快適なお家を作ろう

- 話し合いの結果を受けてその数日後、ダンゴムシの家作りを始めた。本園内には“な～もの森”という自然あふれる環境がある。そこでダンゴムシの飼育ケースに入れてあげる土や葉っぱを探すことになった。

Aちゃん：「“な～もの森”に葉っぱとか沢山あるよ」の考えに、子どもたちは、“な～もの森”で家作りに必要な物を集める。

- 土を集めて、塊になっていたら崩して虫カゴに入れる様子が見られる。

保育者：「何故、土の塊を崩してカゴに入れていたの？」

Bちゃん：「団子の土じゃ、ダンゴムシさんは土の中に入れてないよ」

Cちゃん：「ダンゴムシさん。君たちはどんなお家に住みたいの？」

Dちゃん：「君たちはなんでこんなじめじめした処に住んでるの？クーラーのあるお部屋に行けばいいのに…」

- 土や葉っぱ探しをしている時に、たまたま見付けたダンゴムシに対し、Cちゃんがまるで語りかけるようにつぶやいていた。それを真似るようにDちゃんも続けていた。
- 他のクラスの子にダンゴムシの家を自慢する姿があった。

Aちゃん：「見て！ぺんぎん組のダンゴムシには家があるんだよ」

Bちゃん：「この石は僕が入れた石だよ」

- 園庭にも土や葉っぱはあったが、多くの生き物が住む“な～もの森”で集めようと意見する子どもが多かった。
- 土の塊を崩してカゴに入れるなど、ダンゴムシにとって住みよい環境を考えながら取り組んでいることが窺えた。



✿ 赤ちゃん誕生

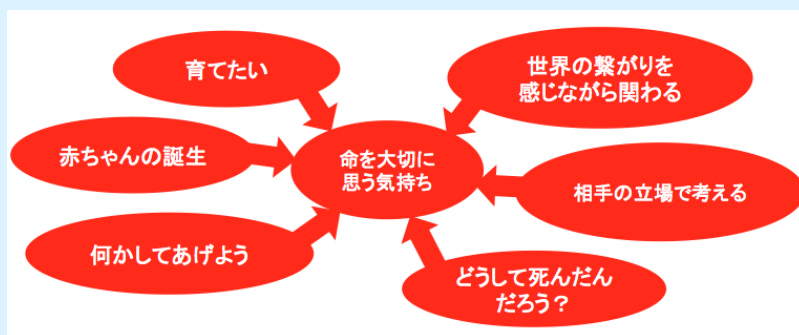
- その後、家作りを終えてからしばらくして、一人の子どもが卵を持ったダンゴムシを掌に載せて遊んでいる最中に、偶然赤ちゃんが生まれた。子どもたちは赤ちゃんダンゴムシを見て「すごい、お米みたいに小さいね」「わぁ動いてるよ」と目をきらきらと輝かせながら、興奮した様子で話していた。感動体験に繋がった。
- みんなで考え合い、赤ちゃんダンゴムシは観察しやすいようにそれだけを別の虫カゴに入れて飼育することにした。



✿ 実践を振り返って

- この活動を行った目的の一つは、子どもたちに「命の大切さ」を感じてほしいということであった。蟻をわざと踏み潰してしまったり、死んでしまったトンボをおもちゃのように扱ったりする姿を目の当たりにし、「どうすれば命の大切さを感じてもらえるだろうか」と悩んでいた時、偶然にも卵を持ったダンゴムシに出会い、これはいい機会だと思いダンゴムシの飼育に取り組んだ。

- ダンゴムシのために何かをしてあげたいという気持ちからか、子どもたちは意欲的に家作りに取り組んでいた。湿った葉っぱを集めたり、土の塊を崩したり、などの姿からは、図鑑や家庭で調べた知識を活用しながらも、虫カゴの中がどのような環境だったらいいだろうかと、親身になって考えている様子を感じられた。



- ダンゴムシの立場になっての環境作りをしたり、掌で赤ちゃんダンゴムシが生まれてきたりなどの体験を通して命を身近に感じることで、ダンゴムシも大切な存在である（＝命の大切さ）を感じとったのではないかと思う。
- この活動で同じ目的をもって友達と共に作り上げる喜びを感じ、共感し合う楽しさに触れたことで、友達が困っているとすぐに声を掛ける姿がよく見られるようになってきた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」